

令和4年度 京都大原学院 後期学校評価（最終報告）

学校教育目標

「大原のゆとりある心を自信をもって伝えられる子に!」

◎後期学校評価を実施し、学力分析テストの結果などを総合し、以下の（１）～（５）の項目ごとに後期学校評価（最終報告）としてまとめました。２月２４日開催の学校運営協議会での協議内容も反映しています。１ページ目に総合評価として、教育目標の達成状況、次年度に向けた見直しについての考えを記述しています。ご協力ありがとうございました。

（後期学校評価）

９年間の「大人になる科」を中心に、地域に根ざしたキャリア教育を進めるなかで、子どもたちのなかに、「大原のゆとりある心」の醸成に成功していると手ごたえを感じています。学校運営協議会と連携し、多くの取組を通して「地域とともにある学校」作りに取り組むことができました。「小中一貫教育小規模校」のメリットを生かし、一人一人に焦点を当て、９年間の育ちを見取る教育を推進することができていると思います。

今後も、小中一貫教育小規模校全国連絡協議会として、本校が取りまとめの事務局を担い、まつのやま学園（新潟）、余呉小中学校（滋賀）、田原小中学校（奈良）、宮島学園（広島）、阿戸小中一貫教育校（広島）と全国の小中一貫教育小規模校、関係教育委員会と連携するとともに、小中一貫教育小規模校の可能性を追求していきたいと考えています。

（学校運営協議会でいただいたご意見）

- ・今後も、地域に根ざしたキャリア教育をさらに進めてほしい。
- ・感染対策に油断なく、教育活動を以前に戻しながら、さらに京都大原学院の、向上発展を目指したい。
- ・ＩＣＴ活用の可能性を探り、小規模校ならではの教育活動の充実を図り、併せて情報モラルの指導を学校から発信し、家庭での指導も促したい。
- ・子どもや家族について相談できる、子どもを守るネットワーク作りに取り組んでいきたい。
- ・学校教育と家庭での教育の連携を図り、学校・家庭・地域でできること、課題の共有をしていきたい。
- ・理数系の教育を進めるなかで、自然について学び、環境保護の視点を取り入れた教育の充実を図りたい。

（１）「確かな学力」の育成に向けて

【分析】

学校評価アンケートでは９割近い学院生が、授業をおおむね理解していると回答しています。探究型の学習では前期ブロックで積極的に取り組んでいると回答しています。ＩＣＴ活用ではまだまだこれから模索をする必要がありますが、回答から活用が進んでいることが伺える。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

本校の学力向上プロジェクトは一定効果が表れていると思います。今まで取り組んできたことを引き続き押し進めながら、学習用タブレットを積極的に活用し、積極的に家庭に持ち帰るなど学習に活用する取り組みを進めていきたいと思っています。

【学校運営協議会より】

・体験活動を小中一貫で9年間積み上げることで、学力の面にも成果がでていると感じます。地域もできる学校への支援を盛り上げていきたいと思います。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

【分析】

後期学校評価アンケートで「自分がされていやなことは、他の人にしないようにしている」などの項目の回答が、前期アンケートより数値が向上していることから、具体的取り組みの①「他者や地域との関わりの中で、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばし、規範意識を身につけていく道徳教育の充実を図る。」ことについての指導の成果が表れていると考えています。また、「大原の環境（自然や景色）に関心がある」の回答でも高い結果になりました。コロナ禍でまだまだ機会は少ない中ですが、取り組みの成果が表れていると思います。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

多くの項目で肯定的回答が80%を超えており、高い数値を示しているのでこれまでの取り組みをさらに向上させ、続けていきたいと思っています。今年度は感染対策に気を付けながら、学年を超えた活動や、ブロック活動、縦割り活動など、少しずつ取組を行うことができた。来年度はさらに多くの活動を実践していきたいと思っています。

【学校運営協議会より】

・体験活動から、子どもたちの豊かな心は醸成されると改めて感じる1年でした。来年はさらに活動を豊かに進めたいと思います。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

【分析】

保健室の利用状況も比較的少なく、毎朝の健康観察記録なども欠かさず行っている生徒が多い状況です。多くの児童生徒が休み時間など、グラウンドに出て体を動かして遊ぶ姿が見られます。地域の駐在所の巡査部長様に薬物乱用の危険性を中心に講演をしていただきました。見守り隊や、地域の方、保護者の協力をいただき、登下校の声かけ、見守りをしていただき、子どもたちは安心して登校できていると思います。保健室の利用状況や、毎朝の出席状況、健康観察記録をブロック・教職員全体で共有し、学院生の健康状態の把握に努めることができたと思います。栄養教諭や養護教諭、担任が協力し学校給食を通じて、望ましい食習慣を養うとともに食育の充実も進めることができました。引き続き取り組んで行きたいと思っています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

来年度も、毎朝の健康観察記録、保健室の利用状況を教職員全体で共有し、学院生の健康状態を把握していきたいと思っています。感染症対策について協議し、子どもたちの体力向上のための取り組みを積極的に展開していきたいと思っています。

【学校運営協議会より】

- ・基本的な生活習慣が身についていることは家庭の教育力がある証拠だと思います。
- ・嫌いな食べ物も挑戦して食べられるようになってきたと聞いています。成長を感じます。

(4) 学校独自の取組

【分析】

学校評価アンケートの項目「大原の自然や環境について関心を持ち、大原のいいところを挙げて

話すことができる」や「やってみたいことやなりたいものが思いつく」「学校の学習が将来、社会に出たとき役に立つと思う」など学院生の肯定的回答が9割を超える結果となった。これより、本校の小中一貫教育小規模校の強みを生かした、キャリア教育である「大人になる科（総合的な学習の時間）」の充実した取り組みが、子どもたちにより影響を与えていると考えられます。教科指導の中でも、研究授業や研修会の充実が進んでいるので、多くの教員が豊かな学習方法を学院生に提供できていると思います。放課後まなび教室や、本校独自の Ohara International Club House での放課後アクティビティーなど、多くの大人が子どもたちの育成に関わっていただいていることも他校内はない本校の大きな強みです。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

9年生の「大原提言」に向かう系統的な学習を来年度以降も大切に進めていきたいと思います。地域・保護者の協力をいただき、今までの取り組みの充実、新しい取り組みを実施していきたいと考えています。学校や保育所・放課後まなび教室・子育て相談施設など、事務的な連携は一定可能となっていますが、これからの取り組みの方向性など協議をする会を全体で行い、さらに充実を図りたいと考えています。

【学校運営協議会より】

・卒業生や関係者から、9年生の大原提言の発表を経験しているので、進学してからも、大きな舞台上で活躍することが難しくないと聞くことが増えてきました。取り組みが形になってきてうれしく思う。

(5) いじめの防止等についての取組に向けて

【分析】

学校評価アンケートでは、「自分がされていやなことはしない」や「みんなが気持ちよく生活できるためのマナーを意識している」などの項目で高評価になっている。お互いを大切にする気持ちを持っていると考えられます。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

日常でも、いじめにつながりそうな光景を担当がキャッチし、以前より関係を深める指導を心がけています。小人数での関係だけでなく、他校との交流を行うためにオンライン交流などの機会を模索していきたいと考えています。感染症対策は意識しながら、多くの人と関わる行事の充実を来年度は図りたいと思います。

【学校運営協議会より】

・多くの大人も学校の行事に関わることができるようになれば、子どもたちとの関係もでき、よい効果が表れると思います。